



うるわしきイスラーム・スタイル

2015年3月26日（木）～ 5月26日（火）

アジアギャラリー

イスラームの美術といえば、モスクを飾るアラベスクの美しい装飾を思い浮かべるでしょうか。そうした突き詰められた静謐で抽象的な文様だけでなく、アジアのイスラーム世界では多様な美術表現がなされてきました。

イスラーム（イスラーム教）は、7世紀はじめにアラビア半島のメッカに興りました。その後、中東からアジア、世界各地に広がり、現在 16 億人が信仰しているといわれています。アジアでは、パキスタン、バングラデシュ、インド、マレーシア、インドネシア、ブルネイといった国々に多くのムスリム（イスラーム教徒）が住んでいます。

そもそも、イスラームとは、アラビア語で「神への絶対的な服従」を意味します。唯一神アッラーが人に授けた法を遵守することを大切にしている、その拠りどころとなるのが聖典コーラン（クルアーン）です。そのコーランでは、偶像崇拜を禁じており、神の姿かたちを表現し、崇めることは行われません。ただし、彫刻や絵画の制作のすべてが禁じられているわけではなく、世俗のイスラーム美術では、人物や動物の表現を含む作品が自由に作られてきました。

本展では、イスラームの宗教美術ではなく、アジアのイスラーム世界に生きる現代の美術作家による 18 点の作品を紹介します。イスラーム美術に特徴的なカリグラフィー（書）や幾何学文様の装飾性を生かした表現を、パキスタンやマレーシアの絵画作品に見ていきます。また、社会が抱える問題を鋭く指摘する人物を含めた具象的な表現を、主に南アジアの絵画作品で紹介します。それらの作品では、長く続くヒンドゥーとムスリムの宗教対立やイスラーム社会が抱える問題を、細密画や大衆美術的な表現を用いて表わしています。

本展をととして、アジアのイスラーム世界の多様に広がる美術表現をご覧ください。幸いです。



▲ イフティハール・ダーディー（パキスタン）
「肉を食べるイスラーム教徒は塩辛いものが好き、一方ヒンドゥー教徒は甘いものが好き」
インクジェットプリント・透明フィルム、ライトボックス、1997 年

出品作品リスト（全 18 点）

- | | | |
|---|--|--|
| ▲ イフティハール・ダーディー（パキスタン）
「何というペールだ！」
インクジェットプリント・透明フィルム、
ライトボックス、1997 年 | ▲ ラジ・クマール・ダス（バングラデシュ）
「タージ・マハル」
油性ペイント・ブリキ、1994 年 | ▲ ハジ・マルシディ・ビン・ハジ・アキブ（ブルネイ）
「シンフォニー No.22（風の季節 No.14）」
油彩・画布、1986 年 |
| ▲ ファールヒーン・マクスード（パキスタン）
「編む」
グワッシュ・手漉きのワスリ紙、2003 年 | ▲ ミヤーン・エジャズル・ハサン（パキスタン）
「ドン！」
油彩・画布、1973 年 | ▲ スレイマン・ハジ・エサ（マレーシア）
「マスリ 2」
手すき紙、金属質の編糸、竹、アクリル
1983 年 |
| ▲ レーシャム・サイヤド（パキスタン）
「寝物語」
アクリル、コラージュ、ボタン、
紅茶・手漉きのワスリ紙、1999 年 | ▲ ミグラーム・モハメッド・シェイク（インド）
「誕生の選択」
油彩・画布、1992-94 年 | ▲ アハマッド・カリッド・ユソフ（マレーシア）
「ジャヴィ（アラビア文字）のカリグラフィー」
アクリル・画布、1985 年 |
| ▲ イヴァン・サギト（インドネシア）
「現実と反映」
油彩・画布、1988 年 | ▲ ラシード・アライーーン（パキスタン）
「ディグリス」
磁器、アクリル、木、ガラス、靴、1992 年 | ▲ ゲルジー（パキスタン）
「原始の記憶」
油彩・画布、1980 年 |
| ▲ サイド・アハメッド・ホセイン（バングラデシュ）
「ブランク（半人半馬の神獣）の頂飾り」
「カーバ神殿のある飾冠の頂飾り」
油性ペイント・ブリキ、1994 年 | ▲ イスマイル・アブドゥル・ラティフ（マレーシア）
「朝の露の谷、プリンセスの沐浴」
混合技法・紙、1988 年 | ▲ アブドゥル・ジャリル・ピロウス（インドネシア）
「まごころのこもった／友好使節」
エッチング・紙、1989 年 |
| | ▲ カジ・ギャスティン（バングラデシュ）
「自然の音-5」
油彩・画布、1996 年 | |